

## 令和2年度 三学期終業式 校長講話 (R3.1.7)

新年、明けましておめでとうございます。

この年末年始を、皆さんの多くは例年以上に静かに過ごしたことと思います。

その中であって、先ほど報告にありましたように、男女バスケットボール部、男子サッカー部がそれぞれ全国大会に出場しました。選手の皆さんが最後まで全力で戦い続ける様子をインターネットやテレビで見て、元気と勇気をもらいました。ありがとうございました。

さて、昨年度の世相を表す漢字一字は「密」でした。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まることなく、多くの人々が常に「密」を意識しながら行動するようになりました。その一方で、「密」に人との関わりをもつことの重要性が再認識されたのではないかと思います。そのようなことから「密」という漢字が選ばれたのだと思います。

私自身の話になりますが、今年は、感染拡大により、関東に住む娘二人には帰省を断念してもらいました。その代わりに、広島に住む私たち家族と関東に住む娘たちとをつないで、オンライン新年会を行い、楽しいひと時を過ごすことができました。そのことを通して、物理的な距離がある中でも「密」に家族の関わりをもつことができると感じるとともに、家族や親しい人と直接顔を合わせて「密」に話ができるようになる日がより一層待ち遠しくなりました。

皆さんの中にも、常に「密」を意識して生活する中で息苦しさを感じたり、ストレスを溜め込んだりしている人もいるかもしれません。2学期の終業式にも話しましたが、そのような時こそ、友達や周囲の人に自分の思いをしっかりと伝えてみてください。必ずそれを受け止めてくれる人がいるはずです。お互いの思いをしっかりと受け止めることのできる環境づくりを、皆実高校で一緒に作っていきたいと思います。

このように、令和2年は、コロナに振り回される一年だったと言えると思います。そして、この感染拡大は今しばらく続くものと考えます。だからこそ、令和3年は、コロナ禍でできないことばかりを考えるのではなく、できることから着実に取り組み、大きく成長を遂げる一年にしてほしいと思います。

第二次世界大戦前後にイギリスの首相として活躍したウィンストン・チャーチルは、「悲観主義者はあらゆる機会（チャンス）の中に困難を見出す。楽観主義者はあらゆる困難の中に機会（チャンス）を見出す。」と述べています。

皆さんも、良い意味で楽観主義者となり、このコロナ禍という「困難」な状況の中でも「チャンス」を見出し、一つ一つ努力してやり遂げてほしいと思います。そのような経験は、皆さんを大きく成長させると思いますし、「あのコロナ禍でも頑張ることができた」という自信は、将来の糧になると考えます。何かと暗いニュースが多く報道される日々ですが、しっかりと気持ちを切り替えて、充実した三学期にしてください。

3年生の皆さん、いよいよ大学入試共通テストが来週末となりました。共通テストは思考力・判断力を重視した新たな試験であり、その意味で皆さんにとっては「困難」なことかもしれません。しかし、知識の記憶を重視したこれまでのセンターテストと違い、これまで学んできたことを総動員して勝負ができるテストであると捉えれば、しっかりと考えたり判断したりしながら学びを深めてきた皆さんにとっては、「チャンス」だと思います。本番に向け体調を整え、攻めの姿勢で集中力を高めてください。学校全体が皆さんを応援しています。